

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見てきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名	此花区
学 校 名	大阪市立春日出小学校
学校長名	杉本 善幸

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・春日出小学校では、第6学年46名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数のいずれの教科についても平均正答率が、全国、大阪市のそれを上回った。
算数科においては、大阪市平均と比べて4ポイント、全国平均と比べて2.6ポイント上回った。中でも「数と計算」についての平均正答率が73.5%となり、計算などの基礎基本が身につけていることがわかる。しかし、昨年度と同様「図形」については全国平均、大阪市平均を下回っており、課題であることが分かる。

国語科においては、大阪市平均と比べて3ポイント、全国平均と比べて2.3ポイント上回った。「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」「我が国の言語文化」の領域において全国平均、大阪市平均を大きく上回ることから、知識・技能の力はついていているといえる。しかし、「書くこと」の領域について、全国平均を7.1ポイント下回っていることから、昨年度と同様、書くことについて課題があることが分かった。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

研究教科を国語に設定して3年目である。今年度は、研究主題を「相手に伝わるように自分の思いを話す子どもを育てる『つけたい力を明確にした言語活動の充実』」と設定し、取り組みを進めてきた。自分の思いを話すためには、国語に関する基礎知識が必要不可欠である。基礎知識の蓄積のため、読書習慣を身につける工夫や視写の取り組みを行ってきた。また、朝の学習の内容を全学年で統一し、基礎基本の問題だけでなく、書く学習にも取り組んできた。その結果、基礎・知識の定着はしてきたことが結果からもわかる。しかし、「書くこと」については、課題が見られる。基礎知識を活かす力をつけるために、学年ごとに児童の学力の実態を分析したり、教材分析をしていく必要がある。

〔算数〕

学習の初めに、学級全体で問題を確認し、めあてを設定している。見通しをもった後に、1人学びの時間を設定し、自分の考えをもって話し合い活動ができるようにしてきた。また、学習の終わりに練習問題に取り組んだり、家庭学習で復習問題の課題を出したりして学習内容の定着を図ってきた。その結果、「図形」以外の領域では、全国平均と大阪市平均を上回った。「図形」の学習では、図形をイメージしたり、実際に動かしたり、作図をしたりする経験が足りないと感じる。

質問調査より

「あなたの学級では、学校生活をよりよくしていくために学級会で話し合い、お互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか。」「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。」の質問において、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を大きく上回っている。自分の思いを話そうとしたり、授業の話し合い活動で経験したことを、学校生活に生かそうしていることが分かる。しかし、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。」の質問において肯定的な回答をした児童は、全国平均を大きく下回っている。このことから、自分の意見や考えを伝えたり、相手の意見や考えを受け入れたりすることはできるが、友だちの話を聞くことができても、それを自分の考えに取り入れたり、新たな気づきにしたりすることができていないことがわかる。児童が考えを深めることができるような話し合いの在り方について研究を進める必要がある。また、「学校の授業時間以外の平日の学習時間」について、1日1時間より少ないと回答した児童の数が全国の約3倍であった。家庭と連携し、家庭学習や自主学習の習慣を身につけさせることが必要である。

今後の取組(アクションプラン)

児童が自分の思いを相手に伝わるように話し、自分自身の考えを深めることができるような話し合い活動について教員間で研究し、実践していく。

自分の思いを話し、受け入れたり受け入れてもらったりするには、児童間の関係作りも大切であると考え。児童が自分の思いを話しやすい学級作りを進めていく必要がある。

書く力をつけるためには、言語の習得、文章構成の理解が必要となる。引き続き、読書習慣を身につける取り組みや視写の取り組みを進めていく。朝学習の時間には、全学年で学習や読書に取り組む。

学年ごとにつけたい力を明確にした言語活動を設定したり、児童の視点を大切に教材研究をしたりすることで、学力の向上を図る。

家庭との連携を図り、家庭学習などの基本的な学習習慣を定着させていく。

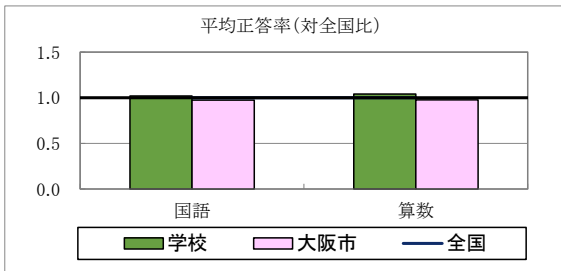
国語科の学習だけでなく、他教科でも発表や話し合いの機会を増やしていく。

読書に興味をもち、進んで本を読もうとする児童を育てるために、学級文庫の充実や本の紹介コーナーや読書タイムなどの取り組みを続ける。

【 全体の概要 】

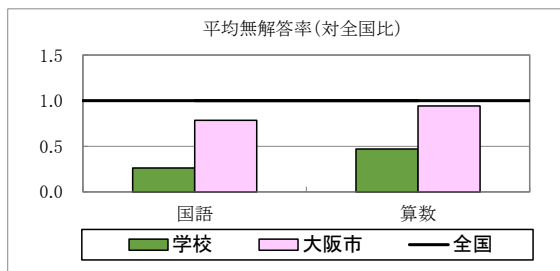
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	69	66
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4



平均無解答率（％）

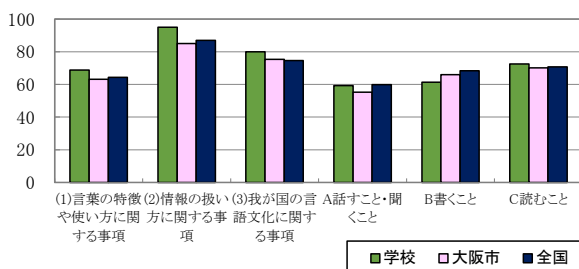
	国語	算数
学校	1.1	1.6
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4



【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	68.8	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	95.0	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	80.0	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	59.2	55.3	59.8
B 書くこと	2	61.3	65.9	68.4
C 読むこと	3	72.5	70.1	70.7

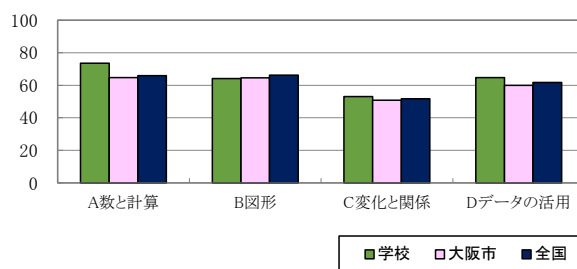
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



【 算 数 】

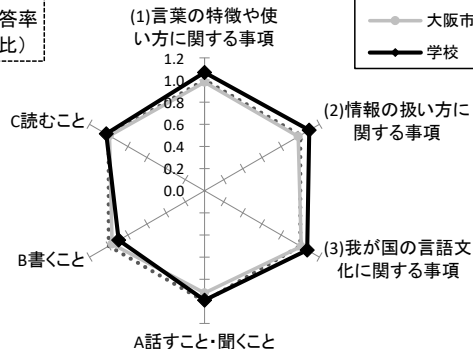
学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	73.5	64.8	66.0
B 図形	4	64.1	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	53.0	50.8	51.7
D データの活用	4	64.7	60.0	61.8

算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



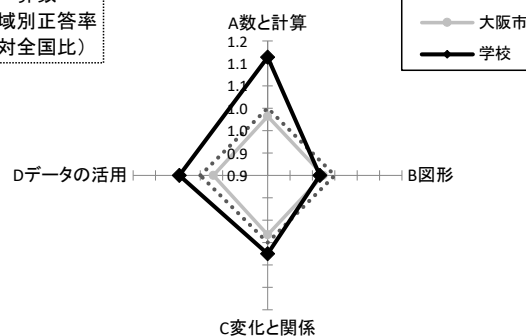
国語

内容別正答率
(対全国比)



算数

領域別正答率
(対全国比)



児童質問より

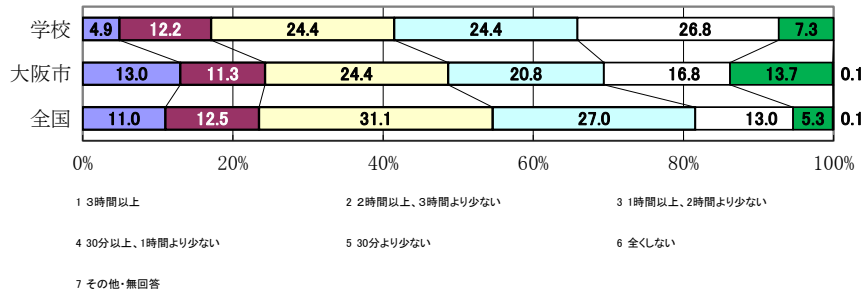
質問番号

質問事項

21

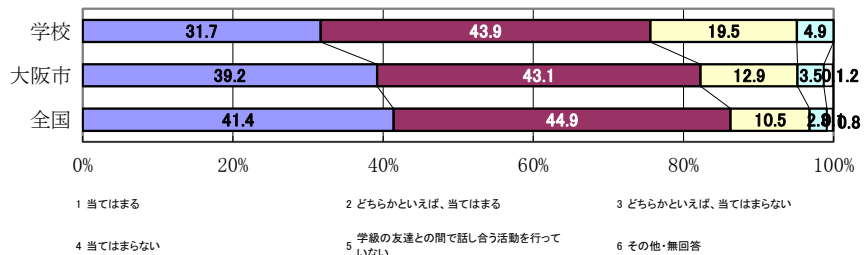
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

1 2 3 4 5 6 7 8



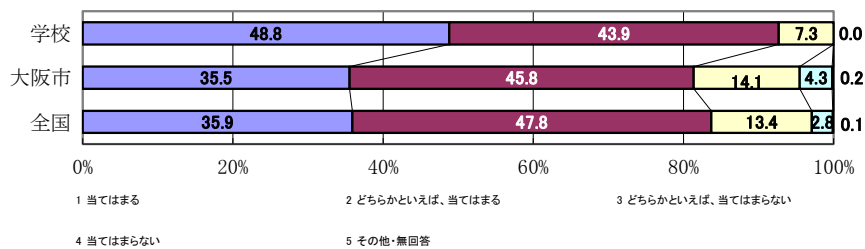
33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



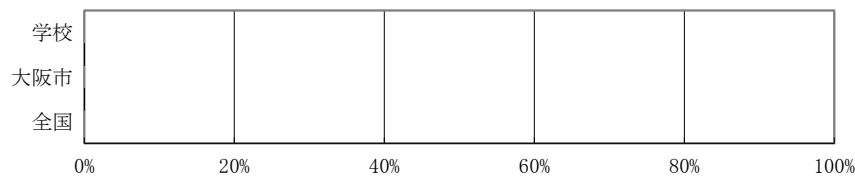
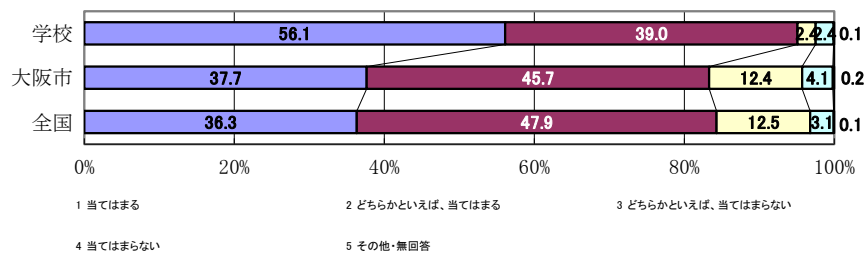
35

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか



39

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



学校質問より

質問番号

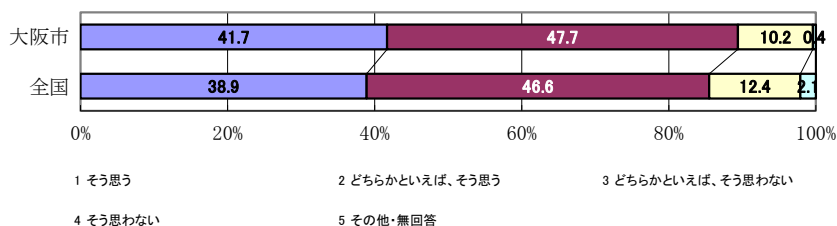
質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



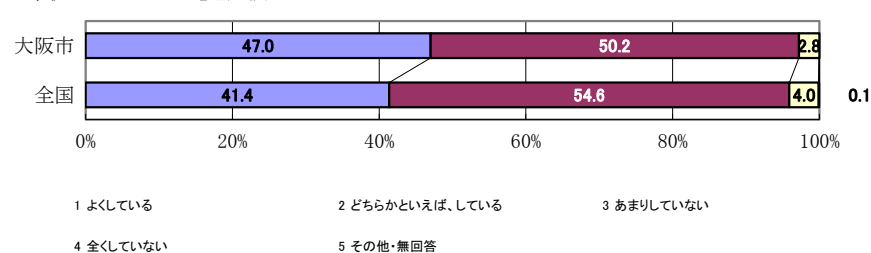
学校「そう思う」を選択



15

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

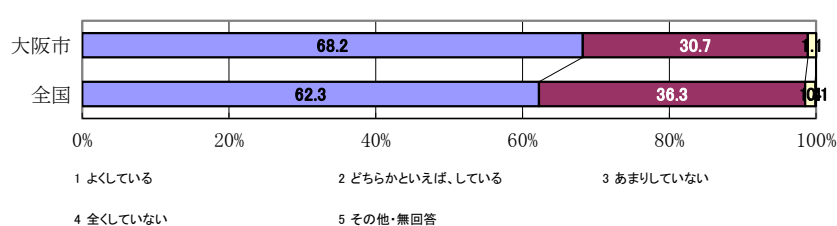
学校「よくしている」を選択



16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

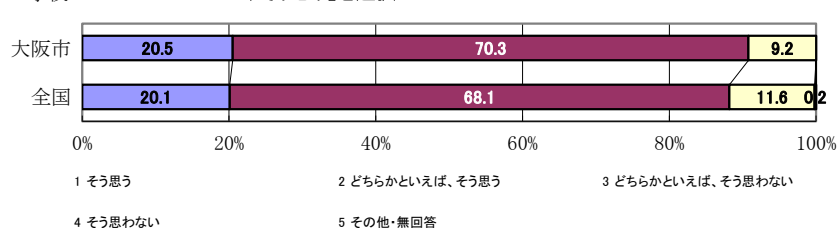
学校「よくしている」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校「どちらかといえば、そう思う」を選択

